



〈雑録〉戦時ニ於ケル「カルテル」運動

W. Notz[著]

田中, 金司(抄譯)

(Citation)

経済學商業學國民經濟雜誌, 26(6):947-962

(Issue Date)

1919-06

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053054>



戰時ニ於ケル「カル

テル」運動

W. Note; Cartels during the war (The Journal of Political Economy, Jan. 1919) ノ抄譯

商學士 田中金 司

一、緒 言

「企業ノ聯合」ト云フコトハ現代事業界ノ套語デアル。特ニ大戰開始以來多クノ國デ經濟動員ヲ頻發シタ爲メコノ企業聯合ノ傾向ハ著シク促進セラレ、産業史上嘗テ見ラレス程ノ顯着ナル發展ヲ遂ゲタ。コノ協同運動ノ中ニハ戰爭ノ終熄ト共ニ間モナク消エ去ルヤウナ一時の戰時政策トシテ行ハレテ居ルモノガ少クナイト同時ニ永久ニコノマ、續クト認ムベキモノモ亦多イ、兎ニ角戰時中ニ現ハレタ幾多ノ獨占の事業協同ノ傾向ガ一國乃至國際の産業ノ將來ニ重大ナ影響ヲ及ボスベキコトハ疑フベキモナイ。今ヤ産

業ノ國家化、政府ノ商工業干涉、産業ノ自發的並ニ強制的聯合ト云ツタヤウナ問題ガ十年以前ニハ夢ノ如クシカ考ヘラレナカツタホドノ大キナ規模ノ下ニ實驗サレルコトナツタノデア

ル。
コノ稿ハ戰爭中ニ於ケル「カルテル」、「シンデゲート」、「トラス」ト、乃至政府ノ獨占事業ノ發展ヲ述ベヤウトスルノデアルガ、主トシテ永久の性質ヲ帶ビタモノニ就イテ特別ノ注意ヲ拂ツテ行カウト思フ。但シ一時の戰時政策モ事業協同ノ一般の傾向ヲ表彰スル範圍ニ於テ且ツソレヤガテ他ノ永久の獨占ヲ誘發スルデアロウト思ハレル範圍ニ於テ之ヲ論ズルコトトスル。

二、何故ニ事業協同ハ戰時

ニ於テ増加セシヤ

戰爭前ニ於テハ一ツノ工業又ハ商業ノ中ニ於テ均一ノ價格ヲ保チ無用ノ競争ヲ避ケヤウト云

フノガ生産者ヤ商人ヲシテ結合ヲナサシムル重ナル動機デアツタ。然シ戰時ニ於テハ事情甚ダ異ナル。國ニヨツテソノ事情ハ一樣デナイガ。

I. 獨逸ヤ壤太利ニ於テハ原料品ノ缺乏ト代用品發見ノ必要トニ強ヒラレテ戰前外國カラ原料品ノ輸入ヲ仰イデ居タ工業者間ニ同盟ガ成立シタモノガ多イ。Schmoller 教授ハ死スル少シク前、ソノ年報ニ於テ原料品購買ノ大聯合ノ成立ハ戰時ニ現ハレタカルテル運動ノ新傾向デアルト指摘シテ居ル。

2. 又政府ノ産業干涉ヲ恐レ之ヲ豫防スル爲メ之ニ先立チカルテルヲ造ルヤウニナツタノモアル。ソシテソレハ獨逸ニ多イ。

3. 次ニハ政府當局ノ獎勵ガ他ノ動機ニ優ツテカルテルノ出現ヲ促進シタ所モアル。ソレハ特ニ英米ノ如ク外國貿易ノ發展ヲ劃策シテ居ル國ニ於テ著シイ現象デアル。

米國デハ外國貿易ニ關スル Federal Trade

Commission ノ調査ニヨリ特ニ輸出貿易ノ爲メニ企業聯合ノ有効ナルコガ明ニセラレ、内外ノ注意ヲ喚起シタ。加之戰争ニヨル外國貿易ノ變化、海外市場及ビ内地産業團隊ニ於ケル獨逸勢力ノ驅逐、新市場ノ開發及ビ戰後ノ貿易政策等ノ諸要素ガ結合シテ外國貿易發展ノ問題ヲシテ私的利害ノ打算ヨリモ寧ロ國民的利害ノ色彩ヲ濃好ナラシメタ事情モアルノデ「輸出貿易ニ於ケル聯合」ト云フ言葉ハ今ヤ時代ノ流行語トナツタ觀ガアル。

ソコデ合衆國デハ所謂 Webb Law ナルモノガ國會デ制定セラレ一九一八年四月十日ヲ以テ承認セラレタ。コレニヨリ輸出貿易ニ從事スル如何ナル聯合モ或ル一定ノ條件ノ下ニ適法ナリトセラル、ニ至ツタ。

英國ニ於テハ商務局長ノ任命ニカ、ル特別ナ委員ガ重要ナル産業ニ就イテ調査ヲ遂ゲタガ、之等委員會ノ大多數ハ英國ノ工業家ハ宜シク結

合スベシト勸奨シタ。一九一六年七月ニハ時ノ總理大臣アスキス氏ハバルフォア氏ヲ委員長トスル一ツノ調査會ヲ任命シ戰後ノ商工政策ヲ研究セシメタ。コノ調査會ハ四十九回ノ協議ヲ重ネタ結果原料品ノ供給ヲ潤澤ニシ、生産ヲ増進シ市場政策ニ成功シヤウトスル爲メニハ從來ノ個人主義ノ見地ヲ捨テ、協同一致ノ經營法ニ移ラネバナラスト云フ決議ニマデ到達シタ。

Carton Foundation モ亦外國貿易ノ共同發展ノ爲メニ結合ノ必要ヲ推奨シ且ツ商務局ヤ領事官等ガ從來ヨリ一層積極的ナ援助ヲ之ニ與ヘネバナラスト主張シテ居ル。商業事情ニ關スル商務局顧問ノ小委員會モ如何ナル産業ニ於テ輸出貿易ニ於ケル共同利益促進ノ爲メニ製造業者ヲシテ結合セシムベキヤニ就キ報告ヲ徴セラレタキ獨逸、米國、加奈陀等ノ實例ヲ引キ結合ノ利ヲ説イテ止マナカッタ。

商務局ハ其ノ報告ノ勸ムル所ニ從ヒ輸出業者

ノ同盟ガ海外ニ調査員ヲ派遣スルモノ費用ノ一部ヲ負擔シ、更ニコレヲ輸出同盟ノ希望ニヨツテハツノ執行委員會ノ席ニ有能ナル顧問ヲ任命シテ派遣スルコトニシタ。

加奈陀デハ勞働委員代理 W. F. O'Connor 氏ガ戰時及ビ戰後ノ貿易狀態ニ論及シテ歐羅巴ノ輸出聯合ノ範ニ則リ販賣同盟ヲ作ルベキコトヲ主張シタ。蓋シ彼ハ思フニ同國內ノアリ餘ル富源ヲ十分ニ利用スル爲メニハ生産ヲ盛ニスル必要ガアリ、生産ヲ盛ニスル爲メニハ戰時ニ於テ同國ガ海外ニ擴張シタ販路ヲ維持スルコトガ必要デアルト云フノデアル。

4. 戰爭中産業ノ利益協同ヲ促進シタ事情トシテ次ニ掲グベキハ極メテ短時期ノ間ニ莫大ナ富ヲ堆積シタ中立國ニ於テ見ラル、狀態デアツテ生産企業ニ猛烈ナル投資ガ可能トナツタ結果企業ノ合併ガ盛ニ誘發セラレタコトデアル。瑞典諾威。丁抹。和蘭。瑞西。西班牙等ニ於テ之ヲ

見ル。

又戰爭ノ結果商工業ニ未曾有ノ發展ヲ遂ゲタ日本ニ於テハ補助金ヤ關稅政策等ニヨル政府ノ保護獎勵ト相俟ツテ産業上ニ聯合運動ヲ促進シタコト著シイモノガアル。

5. 最後ニ揭グト雖モ決シテ輕視シテナラヌノハ軍需品ノ供給ヲ請負フタ商工業者間ニ最大ノ能率ヲ揚ゲル爲メ結合ノ出來タコトデ政府モ亦多クノ場合之ヲ獎勵シタ。

以下各國ノ實例ニヨツテ少シク上記ノ傾向ノ一端ヲ窺ツテ見ヨウ。

三、英 國

戰時「カルテル」運動ノ最モ目醒シイモノハ英國デアル。元來英國ニ於ケル輿論ハ獨占企業ニ對シテ反對ヲ表明シテ居ッタノデアルガ戰爭ガ始マツテ以來著シイ變化ヲ爲シタ。政府ノ任命ニカ、ル多クノ調査會デハ皆「聯合」ノ勸獎スベ

キヲ宣シタ。「エコノミスト」誌ノ傳フル所ニヨレバ商務局ハ企業聯合ノ振興ヲ「熟慮ヲ經タル政策」トシテ採用シタトアル。人若シ英國ニ於ケル主要ナル工業會社總會ノ報告ニ一瞥ヲ加ヘルナラ過去三年間ニ於テ合併、聯合ノ傾向ガ如何ニ著シカヲ知ルデアラウ。

先ヅ化學工業特ニ染料工業ニ就テコノ傾向ヲ窺ツテ見ルナラバ、開戰後間モナク英國ノ工業ヲ獨逸ノ染料工業カラ獨立セシムル目的ヲ以テ政府後援ノ下ニ The British Dye, Ltd. ナル會社ガ設立セラレソレガ更ニ一九一八年夏英國染料界ノ重鎮 *Levingstein, Ltd.* ト提携スルコトニナツタ。所ガコノ新聯合ハ最近 *Levingstein* ノ手ニヨリマンチエスターニ於ケル大染料會社ノ大株主デアル *Nobel's Explosive Co.* ト聯合スルコトニナツタカラ茲ニ染料界ニ巨大ナル一系統ヲ出現セシメタワケデアル。

次ニ英國製鐵、製鋼業者間ニ如何ニ密接複雑

ナル關係が纏綿シテ居ルカハ商務局調査報告ガ
コノ方面ニ於テ三十五ノ聯合會ヲ數ヘテ居ルノ
デモワカル。一九一八年度ノ重役名簿ヲ繰ツテ
見ル者ハ鐵工業者相互ノ間ニ於テ並ニ同工業ト
銀行業、船舶業其他ノ諸會社トノ間ニ抱合、脉
絡ノ關係が縱横ニ織リ成サレテアルノニ一驚ヲ
喫スルデアラウ。

最近ニ於テ Workington Iron and Steel Co.
Steel, Peck and Tozer, Samuel Fox & Co.
Rother Vole Collieries 等ノ諸會社ガ合併シ、
United Steel Companies ナルモノヲ作ツタノデ
アルガ、茲ニ面白イノハ上掲 Workington Iron
and Steel, ト Steel Peck and Tozer トノ二會
社デ、Frodingham Iron and Steel Co. ノ全株ヲ
所有シ、其ノ Frodingham Iron and Steel Co.
ハ更ニ Appleby Iron Co. ノ株式半數ヲ所有シ
テ居ルコトデアル。

同様ノ聯合ガ動力會社ヤ農産機械製造業者等

ノ間ニモ大規模ニ行ハレテ居ル。

船舶業ニ於テモ Royal Mail Steam Pocket Co.
ト其ノ關係會社ノ結合ニヨリ大聯合ガ成立シ更
ニコノ聯合ハ佛蘭西及ビ伊太利ノ汽船會社ト共
同シアル、ベンチン汽船會社ノ株式ヲ買収シコレ
ニヨリ南米諸港ノ間ヲ聯絡スル大組織ヲ作ツ
タ。船舶及ビ造船業ニ關スル調査會モ船舶界ニ
聯合ノ必要ナル所以ヲ力説シタ。

四、獨逸

獨逸ニ於ケル戰時「カルテル」運動ヲ大別スル
ト(1)政府ノ強迫ニヨリ官營ノ獨占ヤ強制的「カル
テル」ノ出現ヲ避クル爲メニ自發的ニ聯合ヲ
シタモノ、(2)原料品輸入ノ道ヲ絶チ切ラレタ爲
メ代用品發見又ハ原料分配ノ爲メニ結合シタモ
ノ、(3)製品輸出ノ道ヲ絶タレ窮境ニ落入レルモ
ノガ現下並ニ戰後ノ劃策ノ爲メニ協同シタモノ
ノ三種トスルコトガ出來ル。簡單ニ實例ヲ掲ゲ

テ見ル。

(1)ノ項下ニ來ル著例ハ石炭ト鐵ニ於テ之ヲ見ル。ライン＝ウエトフアリア石炭「シンデケート」ハ一九一五年十一月ヲ以テ滿期トナルベキ

所、加盟炭坑主ノ間ニ意見ノ不一致アル爲メ期間滿了後聯合ノ更新繼續セラル、希望殆ド絶タレシヲ以テ政府ハ同年七月命令ヲ發シ、若シ該「シンデケート」ニシテ滿期ト共ニ解散セラル、ガ如キコトアランカ、政府ハ之ガ繼續ヲ強制スベシト宣言シタ。茲ニ於テ餘儀ナク一九一六年過渡的「シンデケート」ガ作ラレ翌年該「シンデケート」契約ヲ五年間ニ伸張シタ。コノ「シンデケート」ハウエストフアリア、ライン地方ノ岩坑全部及ビプロシヤノ官有鑛山ノ全部ヲ包含シテ居ル。

鋼鐵ノ「シンデケート」ノ方面ニ於テ所謂 Stahlband ノ計畫ガ行キ惱ンダトキニモ政府ハソノ間ニ斡旋シテ之ヲ進行セシメタ。

鐵ヤ石炭ノ外ニ政府ノ干渉ニ強迫セラレテ「シンデケート」ヲ作ツタ。例ヘバ「セメント」工業ニ於テモ見ルコトガ出來ル。

總ジテコノ種ノ部類ニ屬スルモノハ多ク戰爭ニヨツテ好影響ヲウケタ工業デアツテ、コレニ從事スル者ガ各々他ニ先ジテ巨利ヲ博サウト焦慮シタ爲メ「企業ノ分散」ト云フ他國ト正反對ノ傾向ヲ現ハシタニヨルモノデアル。

(2)コノ部門ニ屬スル例トシテハ一九一五年亞鉛、鉛、白鐵、銅、「アンチモニー」等ノ輸入杜絶ニ苦ンダ瓦斯計量器製作業者ノ間ニ聯合ガ組織セラレ代用品ノ研究ヤ原料ノ分配等ニ工夫ヲ凝シタ如キ、又燃料缺乏及ビ之ニ續イテ起ル工場閉鎖ニ惱マサレ、多クノ工業者間ニ石炭ノ分配政策ガ劃策サレタ如キ等ヲ掲ゲルコトガ出來ル。

(3)之ニ屬スルモノハ戰爭ニヨリ戰前輸出貿易ヲ盛ニ行ヒ巨額ノ海外放資ヲナシテ居タモノガ

開戦ニヨリソレヲノ利益ヲ皆損ニ歸シ剩ヘ戦後貿易戰ニ對シ長イ間準備ヲ怠ラザリシ他國ノ勢力ニ脅カサレテ居ル工業ニ多イ。特ニ電氣工業及ビ染料工業ガコノヨイ例デアル。即チ戦前獨逸ノ電氣工業界ヲ支配シテ居タ Allgemeine Elektrizitäts-Gesellschaft 及シ Siemens-Schuckert ノ二會社ハ戦争ガ始マツテカラ次第ニ相接近シ、終ニ獨逸電氣工業中央聯合會ナルモノヲ設立スルニ至リ、戦前獨逸染料工業ノ牛首ヲ取ツテ居タ七會社ハ開戦後聯合シテ共助ノ道ヲ講ズルニ至ツタ。

更ニ戦後貿易ニ對スル準備トシテハ一九一八年二月政府管督ノ下ニ半官半民ノ輸出貿易會社ガ設立セラレ、獨逸卸商中央會及ビ輸出商組合等ガ之ニ加入シ、戦時及ビ戦後過渡期ニ於ケル獨逸貿易ヲ擁護セントシテ居ル。同様ノ目的ヲ以テ最近更ニ小露西亞地方ニ對スル輸出會社ガ設立セラレ、政府ハ同地方ニ對シテハ燃料ヲ除

ク外總テノモノ、輸出獨占權ヲ該會社附與シタ又石炭及鐵工業ガ汽船會社ト聯合シタ例ガ甚ダ多イ。

五、其他ノ諸國

(1) 瑞典。幾多ノ輸出「カルテル」ガ出現シタ。

(2) 伊太利。重ナル「カルテル」ノ間ニ更ニ聯絡ガ結バレ全國ノ産業組織ヲ統一シテ居ル。コノ國デ特ニ注目ニ値スルモノハ大藏大臣 Nitti 氏ノ斡旋ニヨリ一九一八年同國四大銀行ノ間ニゼ、Anal Ansaldo 工場ノ新株引受ガ成立シタコトデアル。カクテコノ造船、機械、兵器ヲ包含スル大會社ハ資本金一億「リラ」ヨリ一躍五億「リラ」ニ増加シ、宛然タル一大「トラスト」ノ威ヲ以テ同國產業界ニ君臨スルニ至ツタ。

(3) 露西亞。ソビエツト政府ハ命令ヲ出シ外國取引ヲロシア共和國直接支配ノ下ニ置き、政府ヨリ特別ニ認メラレタ機關ノ手ニヨツテ之ヲ行

ハセルコトニシタ。

(4) 濠洲。同國首相ハ一九一八年二月メルボルン Chamber of Manufacturers ニ於テ戰後ノ商工業政策ニ就キ意見ヲ述ベシガ彼ハ各種産業ヨリ代表者ヲ集メ General Council of Commerce and Industry ト云ツタ風ナモノヲ作り、以テ海外貿易ノ發展ヲ期スベキ計畫デアルト云ツタ。

(5) 日本。開戰以來日本ニ於ケル企業聯合ノ勃興ハ括目スベキモノガアル。戰爭中ノ太平洋貿易ハ殆ド日本海運業ノ獨舞臺デアツタ。神戸ノ三汽船會社ハ利益協同行ヒ日本海運業第四ニ位スル會社ヲ作ツタ。織物、化學工業、茶、樟腦其他ノ諸業ノ間ニハ夫々立派ナ「カルテル」ガ組織サレタ。三井、三菱、大倉、古河、久原及ビ東亞興業ノ六大會社ハ支那借款ニ應ズル目的ヲ以テ聯合シタ。コノ聯合ハ既ニ或ル有力ナル鑛業權ヲ獲得スルコトニ成功シタト傳ヘラル。

又百六十ノ日本製造業者ヲ網羅スル The

Associated Industry of Japan ナルモノガカナダニ設立セラレタ。

六、銀行界ノ合併運動

大銀行合併ノ趨勢ハ現代ノ徵象デアル。

(1) 特ニ英國ニ於ケル輿論ハコノ問題ニ就キ著シク喚起セラレタノヲ見ル。蓋シシノ合併運動ノ盛ナルニヨルンデアル。最近ノ例トシテハ、National Bank of Scotland ガ Lloyd's Bank-London and Riverplate Bank, Capital and Counties Bank 等ト合併シ London City and Midland Bank, London Joint Stock, Bank Barclay's Bank, 及ビ London Provincial and South Western Bank 等ノ間ニ利益協同ガ成立シ Anglo-South American Bank Williams Deacon's Bank ノ間ニ亦共同的協約ガ結バレタ事ヲ掲ゲ得ル。

「ロンドンシテイ、アンド、ミッドウエー」銀行ノ頭取兼專務取締役サ、エドワード、ホルデン氏ハ銀行合併運動ヲ論ジテ云フニハ倫敦ヲシテ戰後ニ於テモ世界金融市場ノ中心タルノ地位ヲ保タシメル爲メニハ外國銀行ガ英國銀行ニ要求スルデアラウ所ノ多額ノ貿易資金ノ需要ニ應ジテヤラネバナラズ、ソノ爲メニハ銀行ガモント強く且大キクナツテ居ラネバナラス。ソシテ銀行ガ強大ニナルニハ唯合併ヲ措イテハ他ニ道ガナイト。

澎湃タル銀行集中ノ大勢ヲ見テトツタ英國政府ハ一九一八年三月コノ問題ニ關スル特別ノ調査會ヲ任命シ其ノ報告ヲ徵シタ。該調査會ハ銀行合併運動ノ極マル所終ニ「マネートラスト」ノ發生スル危險ナキヤヲ恐ル、ガ故ニコノ間ニ政府ノ干涉ガ必要デアルト述べ、合併ヲ認可スベキヤ否ヤハ之ヲ大藏省及ビ商務局ノ職責トナスヲ適當トスル旨ヲ答申シタ。

(2) 獨逸ニ於ケル大銀行ガ戰前商工業發達ニ貢獻シタコト大ナルハ衆知ノ事實デアルガ戰爭ガ始マツテ以來之等ノ大銀行ハ盛ニ地方銀行ニ支配ノ手ヲ伸ベ其ノ財力ヲ著シク擴張シタ。例ヘバ Diskonto Gesellschaft ノ如キハ最近中部及ビ西部獨逸ニ於ケル五ツノ地方銀行ヲ買收シタト傳ヘラレテ居ル。一九一四年ニ該銀行ハシヤフハウゼン銀行組合ヲ併合シ、ソレニヨリ多數ノ大「シンデケート」(就中織物工業ニ於ケル「シンデケート」ト氣脉ヲ通ジ、一九一六年ニハ更ニケーニヒベルヒ銀行組合ニマデソノ勢力ヲ延ベ東部獨逸ニ於ケル地歩ヲ固メタ。 Dresdener Bank ハアーヘンノ有名ナルライノウエストフアリア割引會社ヲ引キ入レライン及ビウエストフアリア地方ニ於ケル製粉及ビ織物工業ノ中心地ニ勢力ヲ扶植シタ。 Märkische Bank 亦「ドレスデン」銀行ニ併合セラレタ。 Prior 教授ハ戰時及ビ戰後ノ信用銀行ナル一書ヲ著ハシ信用銀

行、動産並ニ不動産抵當銀行、貯蓄銀行、及ビ保險會社等ノ代表者ヲ網羅スル協議會ヲ組織シ戰時財政ノ諸問題解決ノ爲メニ討究スベキ必要ヲ主張シテ居ル。

(3) 匈牙利ニ於テモ同様ノ傾向ヲ認メルコトガ出來ル。一九一七年末ニ於ケルブタペスト市ノ銀行ハ其數二十九行資本總額千萬「クローネ」デアルガ、中十四行ハ同市又ハ海外ノ銀行ニ從屬的關係ヲ結ンデ居タト云フコトデアル。

(4) 加奈陀デモ Bank of British North America ト Bank of Montreal トノ合併ガアリ Royal Bank of Canada ガ North Crown Bank ヲ併吞スルコトガアリ、一八八九年以來特許銀行數ガ四十一行ヨリ十九行ニ激減シタト云フ著シイ現象ヲ呈シテ居ル。

(5) 其他墺太利、瑞典等ノ諸國ニ於テモ合併運動ノ趨向ハ甚ダ顯著ナルモノガアル。

(6) 北米合衆國デハ聯邦準備制度ノ敷カレテ居

タ爲メニ戰時財權集中ノ要求ニヨリ適合シテ行クコトガ出來タガ、更ニ近キ將來ニ於テ一層ノ統一的ノ共同活動ガ生レ出ルデアラウト觀測セラレテ居ル。

七、同業者組合

戰時ノ必要ニ迫ラレテ同業者組合ガ非常ノ勢デ而カモ大規模ニ種々ナ方面ニ發達シタコトハ亦注意スベキ現象デアル。

(1) 合衆國ノ炭業及ビ染料工業ノ間ニハ初メテ全國ニ互ル組合ガ出來タ。即チ石炭ノ方デハ National Coal Jobbers' Association (生産者ノ組合) National Coal Jobbers' Association (仲買人ノ組合) National Retail Coal Dealers' Association (小賣商ノ組合)ガ出來、染料ノ方デハ Dyestuffs Association of America ガ出來タ。

(2) 英國ニ於テハ Association of British Chemical Manufacturers ガ一九一七年ニ設立セラレ

今デハ百二十三ノ會員ヲ有シ、五千萬磅ノ資本金ヲ代表シテ居ル。又農業機械及ビ器具ノ内外貿易發展ノ目的ヲ以テ National Association of Agriculture Engineers and Implement Dealers ナルモノガ設立サレタ。遮莫英國ノ同業者組合運動ノ中デ最も大規模ナノハ最近 Federation of British Industries. British Empire Producers' Organization British Imperial Council of Commerce ノ聯合ニヨツテ成立シタ同盟會デアル。Federation of British Industries ガ英國主要工業會社一萬五千ヲ網羅シ British Empire Producers' Organization ガ英領地内ノ原料品組合及ビオーストラリア。カナダ及ビ南アフリカノ重ナル工業組合ヲ包擁シテ居ルノヲ以テ見ルモ前記同盟會ノ活動範圍ノ廣サヲ推知スルコトガ出來ヤウ。

(3) 埃太利ニ於テモオーストリア工業聯合ガ一九一七年ニ同國三大工業者組合ノ合併ニヨツテ成立シタ。

(4) 以上諸國ニ限ラズ同業者組合ノ簇生ハ世界各國ニ於テ見ラル、現象デアツテ、ソノ勢ノ極マル所濫設ノ弊ニ落入リ、或方面デハ評論界ノ警告的批評ヲ受ケタ例サヘモアル。

八、國際「カルテル」

戰爭ニ先立ツ十年間ハ國際「カルテル」運動ノ顯著ナル時代デアツテ、開戰當時ニハ百以上ノ國際「カルテル」ガ存在シテ居タ。所ガ一度戰端開カル、ヤ獨逸ノ會社ガ聯合ヨリ排除セラレタ爲メ且ツハ各國ノ商業政策ガ著シク保護貿易ノ色彩ヲ濃厚ニシテ來タ爲メ、少ナカラズ其ノ基礎ニ動搖ヲ來シ國際「カルテル」ハ次第ニ崩壞シテ行ツタ。

獨逸ノ一會社ノ手ニヨツテ設立セラレ、オーストラリアニ於ケル亞鉛及ビ鉛ノ生産ヲ支配シテ居タ Lead Convention ハ開戰ト共ニオーストラリア政府ガ之等金屬取引ヲ外國人ノ支配ヨリ

引キ離シテ同國金屬取引所ノ規則ニ從ハシメル
コトニシタノデ自然廢滅ニ歸シテシマツタ。

白耳義ニ中心ヲ有シテ居タ國際「カルテル」モ
戰爭ト共ニ破レタ。國際硝子「シンデケート」ハ
其ノ一例デアル。

規那ノ國際「カルテル」モ亦戰爭ニヨツテ變改
ヲ受ケタ。コノ「カルテル」ハ米、英、佛、蘭、獨等
ノ會社ノ間ニ販賣區域協定ノ目的ヲ以テ成立シ
タモノデアルガ、英國ハ近頃コレカラ脫退シジ
ヤバノ規那皮生産者ト獨立ノ契約ヲ結ンダト云
フコトデアル。

戰前最モ成功ヲ誇ツテ居タ化學工業ノ國際
「カルテル」モ多クハ分散ノ姿トナツタ。

斯クノ如ク國際「カルテル」ハ戰爭ト共ニ破レ
タモノモ多イガ、又一方ニハ開戰以後ニ出現シ
タモノモアル。

先ヅ英伊兩國ノ間ニハ British-Indian Corpora-
tion ト Credits Italiano トノ結合ニヨツテ Com-

pagnia Italo-Britanica ガ成立シ、佛伊兩國ノ間
ニハ Unione Industriale Italo-Francese ガ成立
シタ。更ニ英國ニハ British Trade Corporation
ナルモノガ一千萬磅ノ巨資ヲ以テ設立セラレ、
一九一七年ニハ六十年ノ期間ヲ以テ政府カラ種
々ノ特權ヲ與ヘラレタ。

一九一六年七月ニハ巴里ニ聯合與國ノ經濟會
議ガアリ、中歐同盟諸國側及ビスカンデナビア
諸國ニモ同ジャウナ會議ガ開カレタ。

以上ノ如ク戰後ニヨツテ分散シタ國際「カル
テル」ト戰時ニ出現シタ國際「カルテル」トガア
ルガ、前者ハ主トシテ純私的會社ノ私的結合ニ
ヨルモノガ多ク、後者ハ多少國民的協商タルノ
色彩ヲ帶ビテ居ルモノガ多イ。巴里經濟會議ノ
如キハ完全ナル意味ニ於テ國民ト國民トノ協商
デアル。而シテ戰爭ニヨツテ崩壞シタ戰前ノ私
的國際「カルテル」ノ中ドノ位ガ戰後再ビ復活シ
來ルカハ「時」ノ解決ヲ待ツヨリ外ナキコトデア

ル。

九、政府ノ獨占

戰爭中政府ガ一國ノ産業ヲ獨占シ之ヲ其ノ統御ノ下ニ置イタ事例ノ多イコトハ「カルテル」ヤ「トラスト」ノ激増ト共ニ顯著ナ現象デアアル。コノ獨占ノ中ニハ戰爭遂行ノ爲メノ一時的政策トシテ行ハレタモノバカリデナク、戰爭ト離レタ重大ナ意義ヲ有シタゞ戰爭ヲ機會トシテ起ツタニスギナイ永續的性質ノモノモマジツテ居ル。前者ニ對シテハ多クノ國ニ於ケル輿論ハ強イ反對ノ聲ヲ揚ゲテ居ル。Rieser 氏ヲ會長トスルHansabundノ總會ハ政府ハソノ産業干涉ヲ戰爭ノ終熄ト共ニ速カニ撤廢シ經濟的自由ノ復舊ト獨占ノ廢止トヲ計ラネバナラスト主張シ、獨逸聯邦議會ノ副議長ハ國會ニ於テ政府ガ戰時ノ經濟組織ヲ永久ニ維持スル意思ノナイコトヲ明言シタ。又英國デモ Albert Stanley ガ一九一八

年四月ニ於ケル商業會議所聯合會ノ席上デ國家ノ狀態ガ許ス限リ迅速ニ政府ハ産業統制ノ手綱ヲ絶チ切ラネバナラスト叫ビ、企業者ハコノ目的ヲ貫徹スル爲メニ結合セヨト主張シタ。

斯クノ如ク一時的戰時政策トシテノ國家ノ産業獨占乃至干涉ガ殆ド四面楚歌ノ重圍ニ落入ツテ居ル間ニ永續的經濟問題トシテノ政府獨占ノ傾向ガ拒ミ難イ力ヲ以テ著々武歩ヲ固メツ、アルコトヲ吾々ハ見逃シテハナラス。

(1) 先ヅ炭坑ノ國家化——即チ炭坑ヲ國家ノ監理統制ノ下ニ置カントスルコト——ガ多數ノ國デ主張セラレテ居ル。英獨ヲ其ノ最モ著シキモノトスル。The Miners' Federation of Great Britainハ炭坑ノ國家化ト云フコトニ大ナル好意ヲ表シ、一九一八年七月Southportニ於ケル總會ニ於テ長時間ニ亘ルコト問題ヲ議シタ。Iron and Coal Trades Review 誌ノ報ズル所ニヨレバNorthumberlandノ鑛業者ノ如キハ戰後六ヶ月内

ニ鑛山ガ國家ノ支配ニ歸サナイナラ業ヲ廢ストマデ意氣込シダトアル。Robson, McEvoyノ諸氏亦炭坑ヲ國家ノ監理ニ移スコトノ可ナルヲ説イテ居ル。

嘗テ Coal Mines Control Agreements Billノ委員會ニ於テ Adamson 氏ハ「統御デハ足ラス、國家之ヲ所有セザルベカラズ。石炭ノ如ク人民ニ緊要缺クベカラザルモノヲ私人ノ手ニ委シ置クハ絶對ニ非ナリ」ト主張シタト傳ヘラル。以テ朝野ノ論調如何ヲ察スルニ足ル。

獨逸ニ於テモ炭業ノ國家化問題ハ輿論ノ焦點ヲナシテ居ル。戰爭中コノ種ノ提案ハ特ニ政府財源ヲ涵養スル目的カラ屢々唱ヘラレタモノデアル。然シ炭坑ヲ國有ニ移スコトニヨリ財政上ノ收入ヲ増スコトハ困難デアラシカツタ。

(2)電氣ノ國有ノ問題モ方々ノ國デ論ゼラレテ居ル。Liefmann 教授、獨逸ニ於ケル戰後ノ獨占ト云フ論文ヲ公ニシ、電氣ノ國有ヲ以テ財政上

ノ目的ニ資スル事ハ到底望ミ難イガ、國民經濟上ノ見地ヨリコノ企ハ當ニ實行スベキモノデアルト述ベタ。Pallot 教授モ亦燃料節約ノ立場ヨリ石炭及ビ電力ノ獨占ヲ主張シ獨逸國內ノ鐵道工業及ビ農業ノ工場ニ於ケル動力ハ電氣トナシカクシテ節約シ得タル石炭(彼ノ計算ニヨレバ鐵道ヲ電力デ運轉スルトキハ國內消費炭量ノ約三分ノ一ヲ節約スル事ヲ得ト云フ)ヲ輸出ニ供セヨト説イテ居ル。其他獨逸ニ於テ彼レ此レ電氣ノ國有ヲ力説シテ居ル人ガ少クナイ。

英國ニ於テハ一九一七年ニ商務局ニヨツテ電力ノ供給ニ就キ特別ノ調查會ガ任命セラレタガ該調查會ハ全國ノ電力調節ヲハカル中央機關ノ必要ヲ建議シタ。コノ中央機關ハ即チ The Electricity Commissioners トシテ知ラレルモノデアル。「アスキス」ニヨリテ任命セラレタ The Coal Conservation Committee モ其ノ報告ニ於テ動力ノ集中ニ就キ同様ノ希望ヲ述ベタ。

濠洲デモ水力電氣改良ニ關スル種々ノ工夫ガ Tasmania, New South Wales, Queensland, Victoria 等ノ政府ニヨリテ實施セラレタ。

(3)鐵道ノ國有ト云フコトガ亦諸方デ問題トナツタ。英國デハ戰時ノ必要上鐵道ヲ一時政府ノ支配ノ下ニ置イタノデアルガ、之ヲ永久ニ國有ニシテシマツタラ如何ト主張スル聲ガ高イ。商務局長モコノ問題ニ論及シテ、英國ノ鐵道ヲ戰前ノ狀態ニ再ビ歸スコトガ國民ノ利益ニナルトハドウシテモ考ヘラレヌト云フテ居ル。

ウルグアイノ大藏大臣ハ中央ウルグアイ鐵道モンテビデオノ水道、聯合電氣鐵道ヲ國家ニ於テ買上ゲンコトヲ提案シタト傳ヘラル。

西班牙ニ於テモ鐵道幹線ノ國家化、水力事業特許ノ調節ヲ計畫シテ居ル。

(4)其他西班牙デハ苛性加里工業ヲ政府ノ支配ノ下ニ置ク法律ヲ發布(一九一八年七月)スルアリ、獨逸デハ酒類ヲ政府ノ專賣トスル案ガ議會

ニ提出セラル、アリ。瑞典デハストツクホルムノ電話ヲ國有ニセントスル計畫アリ、更ニ「メチール、アルコール」ノ政府專賣案ノ提唱アリ、煙草官營ノ實行アリ、埃太利ノ法律ハ燐酸類ノ政府獨占ヲ規定シ、獨逸ノ聯邦會議ハ空中窒素ノ獨占ヲ計畫スルアリ、戰時ノ政府獨占ノ風潮ハ滔々トシテ全世界ヲ蔽フノ觀ガアル。

十、「トラス」禁止法

戰時ノ必要ヨリ「トラス」禁止法ガ緩和セラレタ國ガ少クナイ。

十一、結語

以上述べル所ニヨツテ明ナル如ク、戰爭ノ結果トシテ原料品ノ支配ニ關スル國民間ノ協商、重要商品ノ生産及ビ分配ノ支配ニ關スル私的會社ノ結合、小數銀行ノ資本獨占、巨大ナル貿易及ビ投資團隊ノ成立等ガ未曾有ノ大規模ノ下ニ吾々ノ眼前ニ展開シテ來タ。戰後ノ國際經濟戰

ノ如何ニ激烈トナルベキハ容易ニ推知セラル、デアラウ。從來國際的競争ノ餘リ激シクナカツタ地方ニ對シテモ今ヤ諸方ノ商業的巨人ハ其ノ力ヲ延ベント準備ヲ怠ラナイ。ソシテ「ダンビシク」取締法、關稅政策、乃至工業權保護ニ關スル國際規約等ニヨリドレ程マデ國民的利益ガ保護セラルベキカハ各國政治ノ任ニ當ルモノノ當ニ考究スベキ所デアラウト思ハレル。

附記

本稿第五節「日本」ノ項下ニ述ベシ事項ニ就キテハ疑ノ挿ムベキモノアルトモ暫ク原筆者ノ云フ所ニ從ヒ其儘之ヲ收録ス